

御製 五首

平成十三年

ノルウェー国王王妃と共に

ノルウェーの君迎へむと江の島に子らは集ひてヨット操る

ノルウェー国王陛下は、皇太子であられた昭和三十九年（一九六四年）、東京オリンピック・ノルウェー選手団の一員として江ノ島でヨット競技に参加された。

阪神淡路大震災被災地訪問

六年の難きに耐へて人々の築きたる街みどり豊けし

日光田母沢御用邸記念公園を訪れて

一年を過しし頃のなつかしく修復なりし部屋を巡りぬ

天皇陛下は、昭和十九年七月から昭和二十年七月にかけて田母沢御用邸に疎開なさっていた。

新島、神津島訪問

幾すじも崩落のあと白く見ゆはげしき地震の禍うけし島

アフガニスタン戦場となりて

カーブルの戦終りて人々の街ゆくすがた喜びに満つ

第五十二回全国植樹祭

山梨県

切り立ちし瑞牆山みづがきやまのふもと来ていろはかへでの苗を植えけり

第五十六回国民体育大会秋季大会

宮城県

開幕の集団演技はじまりて宮城の空に虹かかりたり

第二十一回全国豊かな海づくり大会

静岡県

手渡ししたかあしがにを携へて海人あまびとのふね沖へ出でゆく

皇后陛下御歌 三首

平成十三年

知らずしてわれも撃ちしや春闌くるバーミアンの野にみ仏在さず

(三月)

春深いバーミアンの野に、今はもう石像のお姿がない。人間の中にひそむ憎しみや不寛容の表徴として仏像が破壊されたとすれば、しらずしらず自分もまた一つの弾を撃っていたのではないだろうか、という悲しみと怖れの気持ちをお詠みになった御歌。

(参考)

皇后さまは昭和四十六年(一九七一年)アフガニスタン公式訪問中、陛下とバーミアンをお訪ねになり、次のような御歌をお詠みになつている。この時すでに石像のお顔はそがれていたが、この度はタリバンにより撃たれ、爆破された。

アフガニスタンの旅

バーミアンの月ほのあかく石仏は御貌削がれて立ち給ひけり

外国の風招きつつ国柱太しくあれと守り給ひき

(七月)

明治の開国にあたり、明治天皇が広く世界の叡智に学ぶことを奨励なさると共に、日本古来の思想や習慣を重んじられ、国の基を大切に守りになったことへの崇敬をお詠みになった御歌

(参考)

明治神宮御鎮座八十周年にあたり、御製、御歌の願い出があつたが、六月に香淳皇后が崩御になり、今年の御献詠となった。

いとしくも母となる身の籠れるを初 凧のゆふべは思ふ

(十一月)

十一月、初凧が激しく吹いた夕方、出産の日を待たれる東宮妃殿下の上を思われてお詠みになった御歌

(参考)

御出産十二月一日